|  |
| --- |
| **民生委員・児童委員の活動紹介⑨（湯浅町民生児童委員協議会）**  笑顔がコミュニケーションの鍵 |

和歌山県社会福祉協議会では、県内の民生委員・児童委員及び民生委員・児童委員協議会の活動を順次ご紹介しています。

湯浅町民生児童委員協議会　会長　山﨑マサコ　さんにお話をお伺いしました。

（取材日：平成27年7月28日）

**民生委員になられたきっかけはなんですか？**

　他町より湯浅町に来て、美容業を開業しました。町民の皆さんに親切にしていただき現在も営業できています。47歳の時に民生委員児童委員就任への話を受けましたが、私には無理と思い一度はお断りしました。その時、夫から、今の仕事(美容業)ができているのは町民の皆さんのおかげだから、何かのお返し、感謝の気持ちで引き受けてはどうか、応援するからと助言してもらい、引き受けました。

　皆さんの協力や指導のおかげで、現在も務めさせていただいています。

**日々の活動で心がけていることはなんですか？**

　民生委員児童委員だから、ではなく一人の人間です。近所の方々や高齢者の方と世間話をします。道で会えば挨拶します。私の住んでいる地域は一人暮らしの方が多いところです。また、あまり人に世話をかけたくないからと自立精神の強い方が多いです。いつも尊敬しているところです。しかし、一人暮らしの方から時々話を聞いてほしいと伺うことがあります。

　本人や家族の方から相談をいただいたら、すぐに訪問します。手続き等の支援が必要な場合は、本人の了解を得て、すぐに社協やケアマネジャー、役場等、関係機関につなぐように心掛けています。関係機関の方も、フットワーク軽く、支援に動いてくれます。民生委員一人で支援することには限界がありますが、相談すればつながる関係づくりができています。すぐに動くことは、相談者の安心につながると思います。

　また、孤独死の問題も気がかりです。亡くなられた方の親族が遠方でも、連絡を取ることが出来れば来ていただけますが、来られない方もおられます。その時は、地域包括支援センターや亡くなられた方の担当のヘルパーさんと共に、亡くなられた方の葬儀や手続きなどを手伝わせていただいたこともあり、また民生委員一人で手伝うこともありあります。

**民生児童委員協議会として、どのような活動をされていますか？**

（１）高齢者、障がい者が安心して暮らせる町

要援護者の支援に取り組んでいます。

特に、低い土地が多い地形ですので、地震に伴う津波対策に力を入れています。

全町民は、自分の命は自分で守るのが第1と思っていただくように取り組んでいます。

第1避難場所、第2避難場所を決めており、近所では、４～５人で助け合いながら避難できるようにと話し合っています。

また、社会福祉協議会では非常食の用意や避難具の用意をしていただいています。

　町では避難場所の広報チラシを配布しています。

（２）子どもの見守り活動

商家の町です。金山寺味噌や醤油が町の特産品です。みかん農業や漁業も盛んです。しかし、若者が町外に仕事を求め、町の中心部の空洞化もすすんでいます。

　このような町で、子どもを町で大切にそだてるため、民生児童委員協議会の児童福祉部会が中心となり、月2回、登校時での朝のあいさつ運動等を通じて、子どもの見守り活動に取り組んでいます、その他、絵本等の読み聞かせに取り組んでいる活動に参加している委員もいます。

**民生児童委員協議会としての課題はありますか？**

　昔に比べ、定年の年齢も引き上げられ、仕事を持たれている人が多いなか、民生委員の活動が負担に感じる方も多く、民生委員児童委員の担い手が不足している一因になっているのではないかと感じます。

**民生委員としてのこれからの抱負をお聞かせください。**

　なんでも相談できる、相談しやすい民生委員で居たいと思っています。自分から、動けず声を上げられない人の相談に乗りたいし、相談できる存在になりたいと思っています。人とのコミュニケーションは笑顔で、そしてコミュニケーションを続けていくのも大切だと思うのです。相談者もまた町民、私も町民。同じ目線で向き合っています。